

『千成ミニきゅうり』の使い分けと栽培ポイント

ナカハラのたね

カリカリ千成

ドカナリ千成

ミニミニ千成

タイプ

完全節成

果長

12~13cm

完全節成で側枝はあまり発生しない。

収量

★★★

主枝・側枝共に1節から1~2本収穫できる。

★★★★★

1度収穫した節からも二番果が着果し、1節から3~5本収穫(房成)できる。

7~8cm

イボ

ほとんどない(栽培後期に若干生じる)

耐病性

うどんこ病、ベト病に比較的強い。

特徴

- 茎は細めで葉も比較的小さく、早い時期より側枝が発生する。
- 側枝の発生は多く主枝・側枝共に節成で、長期間に渡り安定して収穫でき収量も多い。
- 営利栽培に適する。

- 側枝はあまり発生しないため、誘引の手間が少なく栽培しやすいので、家庭園芸にも適する。

- 側枝はあまり発生しないため、誘引の手間が少なく、基本的に主枝のみで収穫する。
- 葉が極めて小さいので、鉢植えでの行灯仕立てやプランター栽培に適する。

注意点

- 6月~7月の播種は果長が短くなりやすいため、抑制栽培は8月中旬以降の播種が良い。

- 6月~7月の播種は果長が短くなりやすいため、抑制栽培は8月中旬以降の播種が良い。
- 栽培後期に株が弱ってくると、中細り果が発生しやすいため肥切れに注意。

- 乾燥、肥料不足や日照不足により流れ果が発生しやすい。
- 根が弱いため、極端な乾燥により葉焼けしやすい。

仕立て方 (例)



用途

- カリカリとした食感と胡瓜本来の風味で食味抜群。
- サラダやサンドウィッチの具材など生食に適しますが、漬物にしてもカリカリ食感が楽しめます。

- みずみずしい食感で、おやつ代わりに冷やして丸ごとがおすすめ!!
- ピクルスや浅漬けにすると一層甘みが引き立ちます。



育苗

育苗期間は3-4週間です。定植予定期間から逆算して播種しましょう。
発芽適温25℃前後。播種後3-4日で発芽します。
発芽後は徒長防止の為、温度を徐々に下げていき20℃程度にします。
徒長をおさえ、節間のつまつたしっかりと苗作りを心掛けましょう。

ドカナリ千成の開花。一番花が開花した時には、同じ節位から既に次の蕾が発生している。

定植準備

キュウリの根は湿害に弱いため、排水の良い畑で高めの畠を作ります。
土壤酸度は中性~弱アルカリ性(pH5.5-7.2)を好むため、苦土石灰などにより土壤の酸度調整が必要です。
浅根性で比較的乾燥にも弱いため、施肥後に雑草防止・地温の確保を兼ねた乾燥予防にマルチをすると良いです。
※畠を作った後、一度雨にあてるか充分に灌水をするなどして、土壤が保水している状態でマルチを張るようにしましょう。
定植前に誘引用のキュウリネットを張っておきます。

定植

カリカリ千成 : 株間60-70cm、畠幅1.0mの1条植え~1.5mの2条植え
ドカナリ千成 : 株間40-50cm、畠幅1.0mの1条植え~1.5mの2条植え
ミニミニ千成 : 鉢植えする場合は、鉢の中央部分に穴を開け、苗を植え十分に灌水する。このあと誘引用の支柱を立てる
定植時期は苗の本葉数が2.5-3.0枚程度。※根の状態を見て、鉢全体に根が真っ白に回り過ぎないうちに行いましょう。
定植は深植えをすると活着が遅れるので、やや浅植えとしましょう。
キュウリの生育適温は昼間22-28℃、夜間17-18℃程度です。10-12℃以下では生育しないので注意しましょう。

定植後の管理

樹勢の維持や主枝の伸びをよくするため、5~6節目までは摘枝、摘果します。
主枝が誘引用の支柱の先端に達したら、芯を止めます。
収穫は、実を大きくしそうと株を弱らせるため早めの収穫を心掛けましょう。

カリカリ千成
各節から側枝が発生しますが、中位節までは葉を1枚、それ以降は2枚残して摘心します。

ドカナリ千成
中位節から側枝が発生する場合がありますが、その場合は側枝の葉を1~2枚残して芯を止めます。
収穫が始まると次々と着果してきますので、株が弱らないように灌水と追肥をこまめに行います。

ミニミニ千成
中位節から側枝が発生する場合がありますが、その場合は側枝の葉を1~2枚残して芯を止めます。
収穫が始まると次々と着果してきますので、株が弱らないように灌水と追肥をこまめに行います。
鉢植えの場合は畑で栽培する場合よりも乾燥しやすいため、こまめに(1日2回程度)灌水しましょう。
10日に1度程度、液肥もしくは固形の化成肥料を与えます。



房成で着果するドカナリ千成